

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第10回会議 議事要旨

日時：令和元年10月31日（木）14:00～15:10

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

石川 日出志 副委員長	吉村 晶子 委員
山田 和夫 委員	堀江 正郎 委員
佐々木 富美子 委員	

<区関係理事者>

古平 広報課長	丸本 都市計画課長
岩本 土木政策課長	杉戸 道路公園課長

<事務局>

小野村 教育振興部長	野尻 飛鳥山博物館長	
中島 学芸員	牛山 学芸員	安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - (1) 国史跡中里貝塚保存活用計画書 全体の確認・検討
4. 報告
 - (1) 中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行
 - (2) ワークショップの報告
5. その他
6. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第10回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
4. 議事関係
資料1 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第6号
『史跡 中里貝塚 保存活用計画素案（案）』

【傍聴人】

傍聴人 0 名

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

<議題（1）国史跡中里貝塚保存活用計画書 全体の確認・検討>

○事務局 一資料説明一

○副委員長

前回の資料から、かなり分かりやすく整理されたと思う。

○委員

計画書全体の整合性の面で気になったのは、58ページの「まちづくりの核として～～」という表現と、68ページの「地域の核としての活用」という表現。どちらかで統一してもらえればと思う。また、69ページの「■にぎわい創出のための活用」という位置づけの中で、70ページに「～～中里貝塚へ来訪者を積極的に誘導する。」とあるが、この2つが結びつくと、「たくさん人を呼ぶ」ことだけが目的となってしまうのではないか、不安がある。

○委員

「■にぎわい創出のための活用」に関しては、これまでの委員会の流れとして、観光地化を目指すのではなく、あくまでも文化的・学術的な方向で活用を図るということなので、表現を検討してほしい。

○事務局

ワークショップ等で地元の方々からも、観光地化の方向には進めてほしくない、という意見が出ていたので、「観光地化を目指すのではない」という点が伝わるような表現に修正する。

○副委員長

69～70 ページの「■にぎわい創出のための活用」の表現については、70 ページの「来訪者を積極的に誘導する」という表現を「来訪者を誘う」などにすると、だいぶ柔らかい印象になる。

○委員

大事なのは、ここがまさに現場なのだという点。現地に立って、その場所を尊重することができる点が重要なので、「にぎわい創出」や「積極的に誘導」などの文言がなくても、その意図を伝えることができると思う。

○事務局

史跡の保存活用の結果、「にぎわいのあるまち」になっていく、そういう姿を目指したいという思いがあるので、表現を工夫したうえで「にぎわい」という言葉は残したいと思う。

○委員

「にぎわい」といっても、観光地化とは区別された形でこの中里貝塚を良く理解して尊重して大切に思う人達の集いがこの場所で生まれる、というようなニュアンスであれば、残しても良いと思う。

○委員

69 ページの見学ルートの設定は良いと思うが、このルートと重複するような形でコミュニティバスが通ると、地元としても助かるし、来訪者の利便性向上にも繋がると思う。

○委員

69 ページのモデルコースに七社神社裏貝塚が入っているが、あの周辺は、大々的に再開発されており、工事が終われば見学等も大丈夫なのか。

○事務局

あの一帯には日本製紙の社宅が3棟あって、マンション工事に絡んで確認調査を実施した。このモデルコースは、この一帯にいくつか貝塚があり、それらの遺跡が中里貝塚の形成にも関わっている、ということを示している図となる。

○委員

48 ページの左下の写真「②花壇」は、実際は花壇ではなく、花壇を植え替える際に仮置きして並べておいた状態なので、写真を差し替えてもらえればと思う。

○委員

70 ページの「本質的価値が体感できるような仕掛け」や72 ページの「■貝塚の規模が体感できる仕掛けの検討」の「仕掛け」という表現が、あまり一般的ではないので、「工夫」などに修正してほしい。

○副委員長

68 ページの「■調査研究素材としての活用」で、「縄文遺跡のある各地の自治体～～」とあるが、こ

こは貝塚に加えて、下野谷遺跡などの遺跡も含まれるので「縄文時代の貝塚や遺跡～～」という表現にすると、関連遺跡との連携を示すうえで分かりやすいと思う。

4. 報告

<報告（1）中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行>

<報告（2）ワークショップの報告>

○事務局 一資料説明一

○副委員長

現地視察で下野谷遺跡のVR体験をした、とのことだが、これらの最新機器を用いた手法は開発途上なので、今後どんどん進化していくと思う。各地の史跡で試験的な取り組みを行っているため、情報収集をしながらより良い方法を検討してもらえると良い。

5. その他

※事務局から、次回委員会の日程について説明。

6. 閉会

以上